

コミュニケーション

今週も脳科学のお話です。今回は、コミュニケーションについて考えてみます。新型コロナウイルス感染症により、2年もの間、通常の学校生活を送ることができない状態が続いています。皆さんは感染対策を行い、制限がある中でも充実した学校生活を送るために努力を重ねてきました。

見方を変えると、そのために予定よりも進んだこともあります。ICTです。具体的には、タブレット型端末（たんまつ）やオンライン授業などです。短い期間で、皆さんはタブレットを使えるようになりました。いつの間にか、タブレットは、皆さんにとって文房具の一つになっていたようです。

皆さんは、オンライン授業も経験しています。教室で行う対面の授業と比べてどうでしたか。大学の先生が、ある実験を行いました。大学生に議論をさせました。片方のグループは対面で行いました。もう片方は、ウェブを使って行いました。

さて、どういう結果になったのでしょうか。対面では脳の活動が始まりましたが、ウェブでは、何もしないでいるときと同じ状態でした。もちろん、個人差はありますが、授業などの活動は、ウェブよりは対面の方がいいようです。

教育にはコミュニケーションが必要です。対面でのコミュニケーションでは、皆さんの脳にいろいろな変化が起こります。また、親子の会話では、思考の脳が活発に働きます。さらに、会話だけでなく親子で共同作業をすると、子どもの脳は、ずっと働き放しになることも実験でわかりました。

親子の会話でも、顔を見て会話すると脳が働きますが、携帯電話等を使いながら顔を見ないで話すとも脳の活動はなくなってしまいます。加えて、朝ご飯です。バランスのよい朝ご飯を、できれば家族と一緒に食べることによって自然と学力が高くなるという現実があります。

大切なことは、対面とウェブの使い分けです。ウェブだと東京や大阪の方、海外の方とも、容易にコミュニケーションをとることができます。その一方で、思考を伴うような議論、ディスカッション、話し合いなどは、できる限り対面がいいでしょう。

今は、タブレットやオンライン授業、ウェブ会議などを積極的に使ってみて、そのよさとマイナス点を理解することが大切です。新型コロナウイルス感染症が収（おさ）まったとしても、タブレットを使わなくなることはありません。これからもオンライン授業やウェブ会議は、どんどん活用されていくでしょう。

今の状況は、ICT化が進んでいる一方で、親子の会話、親子の共同作業、顔を見ての会話などが大切であることを改めて教えてくれているのです。今までは気づかなかったコミュニケーションの重要性について考えるよい機会なのかもしれません。